

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K11904

研究課題名(和文) アジアの冷戦と女性たちの経験—転換期における地域・アクターの視点から

研究課題名(英文) Women's experiences during the cold war in Asea-Considering regions and actors in transition

研究代表者

朴 正鎮 (Park, Jung Jin)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：10712242

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、1950年代のアジア各地域(沖縄、朝鮮半島、中国、台湾、ミャンマー)の女性たちの経験に焦点を当て、沖縄系移民、沖縄、朝鮮半島、中国東北部、中国・ミャンマー間の宗教者など、国境を越える移動を伴った生活史・実態について、個人史、インタビューなどから部分的に明らかにした。女性たちの経験、記憶、認識について記録し分析・考察することによって、女性たちが生きてきた地域の戦後と冷戦が、彼女らの生活をどのように規定し、その中でどのように主体的に生きようとしたのか、また、冷戦と「分断」状況における各地域の政治・経済・社会の関係について、女性の視点から地域横断的に議論し、ジェンダーの役割を考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国際関係の変動とともにその時代を生きた女性たち個人の経験に注目した。従来の冷戦研究は、その中に生きる個人の視点および地域横断的な運動性の視点が十分ではなかった。本研究は、冷戦に規定されたアジアの国際関係と女性たちの経験を参照し、国家だけではない地域・アクターの役割を明らかにした。移動を伴って生活する女性たちの経験を明らかにすることによって、ジェンダーの視点から冷戦の形成と人々の生活との関係を検討した。

また、それぞれの課題を合わせて総合的に当該時期のアジア国際関係の有機的变化を議論することができた。聞き取り、インタビューなどオーラルヒストリーと文献資料等を参照し、新しい知見を得た。

研究成果の概要(英文)：This study focuses on the experiences of women in various parts of Asia (Okinawa, the Korean Peninsula, China, Taiwan, and Myanmar) in the 1950s. Based on personal histories and interviews, the study partially clarified the life histories and actual conditions that accompanied transnational migration, including immigrants from Okinawa, the Korean Peninsula, Northeast China, and religious people between China and Myanmar. By documenting, analyzing, and discussing the experiences, memories, and perceptions of the women, we examined how the postwar period and the Cold War defined their lives in the regions where they lived and how they tried to live proactively within those conditions. Also we discuss the political, economic, and social relations of each region in the Cold War and "divided" situations and how the role of gender worked from women's perspectives across the region.

研究分野：国際関係

キーワード：国際関係 アジア 地域研究 ジェンダー 冷戦 移動

1. 研究開始当初の背景

本研究に参加するメンバーは、津田塾大学国際関係研究所の関連研究会である近現代東アジア研究会および沖縄関係学研究会で、「国際関係と地域」に関する問題意識を共有し、定期的に研究会を行なってきた。冷戦期におけるアジアの状況を考察する上で、女性たちの移動を伴う経験を共有する視点とし、ジェンダーの視点から政治・経済・社会・文化と地域の関係を検討することを目指して、共同研究を企画した。

2. 研究の目的

本研究の目標は、冷戦期のアジア各地域(沖縄、朝鮮半島、中国、台湾、ミャンマー)の女性たちの経験に焦点を当て、沖縄系移民、沖縄内外の移動、在日朝鮮人、中国東北部の女性たちと文化、中国・ミャンマー間の越境者など、国境を越える移動を伴った生活史・実態について、個人史、インタビューなどを通じて明らかにすることである。女性たちの経験、記憶、そこから培われた認識について記録し、分析・考察することによって、彼女たちが生きてきた地域の戦後と冷戦が、女性たちの生活をどのように規定し、その中でどのように主体的に生きようとしたのかを解明することを試みた。同時に、冷戦と「分断」状況における各地域の政治・経済・社会の関係について、女性の視点から地域横断的に考察・議論し、転換期にジェンダーの果たした役割を検討した。

3. 研究の方法

研究代表者・朴正鎮は、国際政治の視点より、本研究を総括すると同時に、冷戦初期におけるアジアの国際関係・国際政治について理論的考察を行った。研究分担者・小島敬裕は、中国からミャンマーを経由し、台湾に移動した女性の生活に関する事例研究を行い、冷戦初期の国際関係と地域変容について考察した。研究分担者・坂元ひろ子は、アジア、特に中国東北部の女性の移動とその文化について実証研究を行い、冷戦初期の国際関係と女性たちの文化実践について考察した(2024年1月まで)。研究分担者・三澤健宏は、特にアジアから中南米、また中南米地域内での女性の移動について実証研究を行い、冷戦初期の国際関係および人口変動の要因について考察し、周辺化された地域における女性の移動について比較しつつ全体の関係性を検討する機会を提供した。研究分担者・村上尚子は、朝鮮半島、特に済州島から日本への女性の移動について実証研究を行い、冷戦初期の国際関係について考察した(2021年6月まで)。研究分担者・金美恵は、アジア、特に朝鮮半島から日本・沖縄への女性の移動について実証研究を行い、冷戦初期の国際関係と朝鮮半島の「分断」について考察した。研究分担者・山下靖子は、冷戦初期の国際関係や日本と沖縄の歴史的関係に注目して、アメリカ施政権下におかれた沖縄からハワイ・米本土への女性の移動について実証研究を行った。とりわけ「戦争花嫁」

と呼ばれた女性たちに注目し考察した。研究分担者・水谷明子は、第二次世界大戦前後のアジア、特に沖縄・八重山諸島の女性の移動について実証研究を行い、冷戦初期の国際関係と東アジアにおける戦争体験、ジェンダー関係と近代性について考察した。

定期的に研究会を行い、各自の調査と研究に基づく報告、および冷戦初期のこの地域における具体的な女性の移動を伴う経験についての研究者・体験者による講演など、研究活動を行なった。

4．研究成果

本研究では、国際関係の変動とともにその時代を生きた女性たち個人の経験に注目した。特に、これまで冷戦研究や国際関係学の中で十分には議論されてこなかった、1950年代のアジア各地域（沖縄、朝鮮半島、中国、台湾、ミャンマー、中米）の女性たちの経験に焦点を当てた。特に、国境を越える移動を伴った生活史・実態について、先行研究の整理、個人史、インタビュー、統計資料などから、移動を伴って生活する女性たちの経験を明らかにすることによって、ジェンダーの視点からの冷戦の形成と人々の生活との関係を検討した。その過程で明らかになったことは、3点にまとめられる。

(1)そもそもこうした女性の移動を伴う事象に関しては事例研究が少なく、実態が明らかになっていないこと。すなわち、具体的には、「帰国事業」と女性、沖縄への「逆戦争花嫁」、在沖縄「従軍慰安婦」と在沖縄朝鮮人女性の経験、中国・ミャンマー・台湾間の移動と女性、「満州」体験と女性の表現、統計・政策から見られる中米における女性の移動、八重山・奄美など離島における女性の移動と経験と戦後史との関係、などについて、部分的にはあるが、女性たちの経験の実態と移動の背景を明らかにし、冷戦史と繋がる議論の幅を広げることができた。

(2)女性たちの経験、記憶、認識について記録し分析・考察することは、それぞれの地域における冷戦と「分断」状況での各地域の政治・経済・社会の関係について、女性の視点・立場から考察することである。本研究ではこの課題について地域横断的に議論し、転換期における女性たちの移動を伴う経験が広範囲でアジアの近代家父長制に基づくジェンダー関係の変化に影響を受けていることを確認した。さらに、女性たち自身の認識・移動の多様化、複雑化する細部にまで冷戦の影響が入り込む実態、その中で個人の動きや地域における繋がりが認識・移動の新しい変化を生じさせていることを明示できた。限られた事例研究に関してではあるが、女性たちが生きてきた地域の戦後と冷戦が、彼女らの生活をどのような影響を与え、その中で女性たちはどのように主体的に生きようとしたのか、という主体性のあり方にも着目し、それぞれの地域の課題を合わせて総合的に議論することによって、当該時期のアジア国際関係が個人の生活史と関わりながら有機的に変化することを確認した。

(3)この時期の国際関係学と地域研究が交差する方法論的可能性を議論することができた。聞き取り、インタビューなどオーラルヒストリーと文献資料・人口統計等を参照し、地域横断的・学際的に議論することによって、生活史の証言と実態を関連づけ、国境を超えた地域間を考えながらそれぞれの地域の冷戦という状況について考察することができた。今後も国際関係学における学際的な共同研究の意義をさまざまなテーマから確認していく必要があるだろう。

以上より、本研究では、アジアにおける冷戦の影響について、「女性の移動」という視点から再考し、マージナルな位置から冷戦について考える認識を培ってきた。しかし、残念なことに、研究過程で研究組織の変化もあり、当初計画した通りに、研究が進行したとは言えない。その点を

踏まえながら、今後、(1)～(3)の現在の成果を念頭に、広範囲にわたる学問的・社会的課題に答えるような、議論の場を更に作っていくこと目指して研究を継続する。今後も研究会を継続し、最終的には各調査に基づく論考および総括を論文集にまとめる予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 坂元ひろ子（坂元弘子）	4. 巻 上
2. 論文標題 五四新文化運動与性別問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 五四運動与民族復興	6. 最初と最後の頁 456, 466
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 4
2. 論文標題 哲学と翻訳ー中国近代から考えて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 未来哲学	6. 最初と最後の頁 207, 212
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 77-1
2. 論文標題 書評：小野寺史郎著『戦後日本の中国観ーアジアと近代をめぐる葛藤』中央公論社	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中国研究月報	6. 最初と最後の頁 41, 44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金美恵	4. 巻 25
2. 論文標題 <書評> 謝花直美著『戦後沖縄と復興の「異音」：米軍占領下 復興を求めた人々の生存と希望』（有志舎、2021年）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ジェンダー研究	6. 最初と最後の頁 231, 233
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下靖子	4. 巻 41
2. 論文標題 ハワイの沖縄系移民にとって「オキナワン」であるということー湧川清栄の「復帰論」再考ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IICS Monograph Series	6. 最初と最後の頁 1,27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山下靖子	4. 巻 0
2. 論文標題 戦後沖縄問題を巡るハワイの「沖縄系移民」に関する国際社会学的研究ー日本とアメリカの狭間で「オキナワン」であるということー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 博士論文	6. 最初と最後の頁 1,290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水谷 明子	4. 巻 42
2. 論文標題 近代沖縄における女性と書くことー宮城文『八重山生活誌』をめぐるー考察(2)ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 IICS Monograph Series	6. 最初と最後の頁 1,15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴正鎮	4. 巻 第21号
2. 論文標題 書評 菊池嘉晃著『北朝鮮帰国問題の研究 冷戦下の「移民的帰還」と日朝・日韓関係』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『現代韓国朝鮮研究』	6. 最初と最後の頁 23,28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 36号
2. 論文標題 疫病から近代を問う 中国の思想史において、「菌説」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国 社会と文化』	6. 最初と最後の頁 73,82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴正鎮	4. 巻 22
2. 論文標題 日朝冷戦 1950-1973: 戦後処理の分断構造(韓国語)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本批評(ソウル大学日本研究所)	6. 最初と最後の頁 112-139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 101
2. 論文標題 アートにみる植民地主義と女性の身体 富山妙子の中国・「満州国」・韓国との出会い	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋文化(東京大学東洋文化研究所)	6. 最初と最後の頁 107-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三澤健宏	4. 巻 第56号(第43巻第1号)
2. 論文標題 書評 駒井洋(監修) 是川夕(編著) 『人口問題と移民 日本の人口・階層構造はどう変わるのか』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人口学研究	6. 最初と最後の頁 89-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三澤健宏	4. 巻 15
2. 論文標題 研究ノート 初期(1997-1927)のメキシコ日本人移住者の経済地位の変化を把握する試み 瀧川太郎『世界無比の親日国 大宝庫メキシコ』1927の記述を通してー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 JICA横浜 海外移住資料館 研究紀要	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小島敬裕	4. 巻 94
2. 論文標題 「戦中・戦後における日本人とマンマー人仏教徒の交流」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 宗教研究(別冊)	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 水谷明子	4. 巻 7
2. 論文標題 琉球弧における女性の移動経験 沖縄戦と奄美女性史の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合研究(津田塾大学 国際関係研究所)	6. 最初と最後の頁 23-40
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山下靖子	4. 巻 7
2. 論文標題 戦後米国の沖縄占領下における女性たちの移動に関する研究 「戦争花嫁」と「逆戦争花嫁」をとりまく条件と法整備と川平ワンダリーの事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合研究(津田塾大学 国際関係研究所)	6. 最初と最後の頁 133-146
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Park JungJin	4. 巻 10
2. 論文標題 The New Policies of Abe's Cabinet Towards the Korean Peninsula: Background and South Korea's Position	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Global North Korea Commentary	6. 最初と最後の頁 1,7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 朴正鎮	4. 巻 22
2. 論文標題 「日朝冷戦、1945 - 1973 : 戦後処理の分断構造」 (ハングル文字表記)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日本批評』 (ハングル文字表記)	6. 最初と最後の頁 112,139
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 坂元ひろ子	4. 巻 第8号 (通巻128号)
2. 論文標題 初期グローバル化はどこを向くのか 再想像のために	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 研究中国 (日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会)	6. 最初と最後の頁 5,13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三澤健宏	4. 巻 70
2. 論文標題 メキシコ・中米との関係を通してみる米国の移民政策	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 統計 特集 / 移民・難民の世界的増加と先進国の対応	6. 最初と最後の頁 9,16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計23件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 9件）

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 「ピルマにおける上田天瑞の出家と遺骨収集活動—似て非なる「仏教」のはざままで」
3. 学会等名 蓮花寺佛教研究所7月研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三澤健宏
2. 発表標題 メキシコ/中米・カリブ地域からの域外移動の過程と背景 World Population Prospects とIMLAによるデータベースから
3. 学会等名 人口研究会・定例会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金美恵
2. 発表標題 沖縄施政権返還後の旧植民地出身者たちの法的地位について
3. 学会等名 「復帰」50周年シンポジウム-「外国人」問題から共生を考える:米国統治下から現在まで
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山下靖子
2. 発表標題 アメリカの占領下沖縄にやってきたアメリカ人花嫁 WANDALEE WEAVER
3. 学会等名 移民研究会3月定例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 金正恩政権の外交戦略と日本
3. 学会等名 東アジア研究所講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 北朝鮮帰国事業（1959）－ 国際政治による人道主義の行方
3. 学会等名 グローバル・ピース・フェスティバル（GPF）オンラインセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 岸内閣の外交安保政策と日朝関係（韓国語発表）
3. 学会等名 韓国国会立法調査庁オンラインコンフォーランス（Korea National Assembly Research service Foreign Affairs and National Security Team Online Conference）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 日朝国交正常化を考える － 課題として日本における朝鮮半島問題
3. 学会等名 仙台領事館オンラインセミナー
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 在日朝鮮人帰国問題 1959 - 国際人権規範vs国民主権守護 (韓国語)
3. 学会等名 韓国外交院 (Korea National Diplomacy Academy) 韓国外交交渉事例研究プロジェクト
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 「戦中・戦後における日本人とミャンマー人仏教徒の交流」
3. 学会等名 日本宗教学会第79回学術大会 シンポジウム 『近現代日本の仏教 戦前・戦後のアジアにおける連続性と断絶』
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 安倍内閣の北朝鮮政策と韓国
3. 学会等名 The forth conference of the East Asia Consortium of Japanese Studies (EACJS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 北朝鮮帰国事業60年：国際政治と人道主義を考える
3. 学会等名 在日韓人歴史資料館講演 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Park JungJin(朴正鎮)
2. 発表標題 '1965 regime' and the Normalization of Diplomatic Relations Between DPRK and Japan
3. 学会等名 International Symposium for the Future-Oriented Korea-Japan Relations "Envisioning East Asian peace from the abyss of Korea-Japan history conflicts (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 朴正鎮
2. 発表標題 安倍内閣の対朝鮮半島政策：日韓関係の再編と北朝鮮へのアプローチ（ハングル文字表記）
3. 学会等名 2019 KINU International Conference The Retrospect and Prospect of Korean Peninsula-Northeast Asia 2019-2020 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下靖子
2. 発表標題 "Relationship between 'Okinawan war brides' and Okinawan community during U.S. occupation against Okinawa (1945-1972) from gender perspectives : Another history of Okinawan immigration"
3. 学会等名 Annual Meeting of the American Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 国民党軍の「眷属」としての少数民族女性 中国・ミャンマー国境地域から台湾への移動と生活の再構築
3. 学会等名 『中国と東南アジアにおける政治経済的変容と女性の移動』研究会、京都大学東南アジア地域研究研究所
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 北東インドにおけるシンポー族とタイ系民族の仏教実践
3. 学会等名 『2019年度アジア・アフリカ言語文化研究所言語研修（ジンポー語）文化講演』招待講演、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 戦前・戦後における日本とミャンマーの仏教交流史
3. 学会等名 『龍谷大学世界仏教文化研究センター研究セミナー』招待講演、龍谷大学大宮学（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子（坂元弘子）
2. 発表標題 略探章太炎思想裡的社会主义因素以及其与日本人的交往
3. 学会等名 「章太炎和他的時代」學術研討會（中国現代文化学会・中国社会科学院近代史研究所思想史室・杭州師範大学浙江省民国史研究中心・杭州市余杭区章太炎故居紀念館主催、杭州：杭州師範大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子（Sakamoto, Hiroko）
2. 発表標題 Human Aspirations to Create More Challenges for Nature and Human Life
3. 学会等名 The 21th Century Human Value Forum 2019 (Korea Foundation of Cultures and Ethics) Human Values Academic Session1-3 “Era of Galloping Science & Technology and Human Values”（at Andong, Korea,）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子 (坂元弘子)
2. 発表標題 近代中国文化轉型与性別
3. 学会等名 「全球化視域下的近代中華文化轉型」國際學術研討会(中国社会科学院近代史研究所、歷史理論研究所、蘭州大学歴史文化学院) (於：蘭州：蘭州大学) (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 身体表象とジェンダー：中国近現代の女性の痛みの文化史～「満州」体験から韓国と出会う日本人画家富山妙子のアートにみる植民地主義と女性の身体
3. 学会等名 延世大学校近代韓国学研究所人文韓国事業団(HK+) 第2回海外学者招請フォーラム(韓国原州) (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坂元ひろ子
2. 発表標題 A New Cultural Silk Road Envisioned from the Viewpoint of Chinese Intellectual History
3. 学会等名 Imperative to Re-Imagine the Silk Road国際シンポジウム(昆明：雲南師範大学文理学院) (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 西野純也編著、朴榮濬、李元徳、朴正鎮、他5名	4. 発行年 2023年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 激動の朝鮮半島を読み解く	

1. 著者名 小島敬裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 9
3. 書名 「出家生活の実際」『東南アジア上座部仏教への招待』	

1. 著者名 小島敬裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 15
3. 書名 「中国雲南省徳宏州」『東南アジア上座部仏教への招待』	

1. 著者名 Kojima Takahiro and Nathan Badenoch	4. 発行年 2022年
2. 出版社 INSIST Press	5. 総ページ数 49
3. 書名 Dari Teh ke Kuil & Teks: Transformasi Persinggungan Dataran Tinggi-Dataran Rendah di Perbatasan Tiongkok-Myanmar. In Mario Ivan Lopez, Nathan Badenoch and Achmad Choirudin ed., Manusia, Alam, & Masyarakat: Kajian Multidisiplin Asia Tenggara. Yogyakarta	

1. 著者名 小島敬裕	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 25
3. 書名 「現代ミャンマーにおけるLGBT権利擁護運動の展開と性的少数者の地位の変容」日下渉・青山薫・伊賀司・田村慶子編『東南アジアと「LGBT」の政治 - 性的少数者をめぐって何が争われているのか』	

1. 著者名 小島敬裕	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 39
3. 書名 「ミャンマーにおける戦争と中国国境周辺地域の変容 少数民族タアン（パラウン）の生存の技法」瀬戸裕之・河野泰之編『東南アジア大陸部の戦争と地域住民の生存戦略 避難民・女性・少数民族・投降者からの視点』	

1. 著者名 坂元弘子（ひろ子）（郭馳洋訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 上海：上海人民出版社	5. 総ページ数 277
3. 書名 中国近代思想的“連鎖”：以章太炎為中心	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 美恵 (Kim Mihe) (00774142)	東京大学・大学院総合文化研究科・特任研究員 (12601)	
研究分担者	小島 敬裕 (Kojima Takahiro) (10586382)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	
研究分担者	三澤 健宏 (Misawa Takehiro) (20297112)	津田塾大学・学芸学部・教授 (32642)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	坂元 ひろ子 (Sakamoto Hiroko) (30205778)	一橋大学・その他部局等・名誉教授 (12613)	
研究分担者	山下 靖子 (Yamashita Yasuko) (50598547)	津田塾大学・国際関係研究所・研究員 (32642)	
研究分担者	水谷 明子 (Mizutani Akiko) (60360129)	津田塾大学・国際関係研究所・研究員 (32642)	
研究分担者	村上 尚子 (Murakami Naoko) (80624882)	津田塾大学・国際関係研究所・研究員 (32642)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------